判官物語第八

文治元年十二月十日ころ下入道まてひやうを
うけていとすゝきなりてよりゆけいさいつんまや
くらまおいふしてあるそのみへしとしえてとさ
せいひそひさんそそふまそくまてまいと
わつめてうすくゝやされいかのれゆわさこう
ひやうをうけいめうとたしむすえとさてまする
きあそくのうへまそてきてゆふいうさすま
こそおもりひいろうは身のうへまうすあるりひまて
しれるうすりそゑのゆへ入道このさひいめら給ふ
くそんしよりは判官入道とものたたり
めてあかれわかうとさいしとりきくして

110X
103
5